

令和3年度

自己評価

1、園の保育・理念・保育方針・保育目標の理解について

評価 B

年度の初めには職員全体への理事長によるビデオを用いての園の歴史、設立、方針、保育理念等の説明研修を行っている。また、4・5月は特に週一回の職員会議の中で保育目標に対する具体的な説明、解説を行い、理解を深める努力をしている。

2、保育について

評価 B

No、⑤⑥⑦⑩については、伊日歩の検討を要することと判断する。

⑤場所(各教室、多目的ホールなどの広さのある場所とにおいては、照度に差が生じていたり、温度の差が生じている)

⑥安全第一を意識しすぎている面があり、乳児にとって、園庭の端まで出向く距離感がある。

⑦乳児にとっては月齢差による興味関心も異なり、環境設定に苦慮している。

⑩横通し(職員間の)つながり連携の密が必要。臨機応変な職員の行動力と園児の活動を見等した場所設定を考慮する必要がある。

3、健康管理について

評価 A

個別対応、安全点検、感染症や SIDS、アレルギー対応などマニュアル化されており実践、確認が行き届いている。

4、行事について

評価 B

コロナ禍の折、自粛や予防の為の配慮、判断が適切に行われている。

5、食育について

評価 A

入園時の保護者との個別面接、医師との連携(対保護者、対園側)がなされている。また、毎日の目視による確認の徹底がなされている。

6、運営について

評価 B

園長、副園長、主幹教諭、クラスのチーフ職員までの協議等はなされているが、末端までの職員への協議、理解となるとクラスにより、個人により判断に差がある場面がある。

7、保健・安全指導について

評価 B

マニュアルに添い日々研鑽に努めている。

特にコロナ感染症対策に伴い、一層の注意を払い実践している。

8、研修・研究について

評価 B

モニターによる研修が大半をしめていること幸いし、研修に参加しやすくなっている。又、それをクラス内、園全体での報告と実践にも時間的手間がこれまでに比して最小化され効果的に進めている。

9、情報について

評価 A

情報開示については制限を設け園長の許可なくできないシステムを取っていること。又、整理、保管を事務所内に一括することを実践していること幸いし、徹底した管理に至っている。

10、設備について

評価 A

全職員が担当場所を決め安全点検、安全チェック表を用意し計画性をもって確認すると共に、週末には全体の報告と整備、改正の検討協議を行っている。

11、保育者、支援について

評価 A

コロナ禍の折、一同を会しての会合や懇談会などは行わず、気がかりな子どもの様子やの様子など個別に電話、文書(お手紙)登降園の際に対応するようにしている。

- ① 現在、掲示板を利用したり、健康、安全の状況報告と予防に対するアドバイス
- ② 週一回のクラスの様子
 - ・子育てで助言(Q&A)
 - ・健康面での情報提供
- ③ 個別対応(①童話を使用しての対応 ②ホームページの活用)
- ④ 行事開催検討の段階で保護者会代表の人との話し合いを実践している。

12、開かれたこども園づくりについて

評価 B

- ① 伝染病発症予防を考慮し、園内外の開放は控えている
- ② 子育て相談は個別対応を心掛けている
- ③ 園医、療育センター等との連携を図り、個別対応を実施
- ④ 実習生の受け入れ体制はあるが、一昨年より感染症予防の為自粛している

13、情報発信について

評価 B

文章等での情報発信は怠らぬようにしている。

総評

おおむね園全体として出来ている(がんばっている)

感染症予防による新しい生活様式の取り組み、保育体制の変革など、これからも検討しつつ、安全安心第一で保育・教育の充実が求められる。また、感染症を通して、これまでの保育・教育のあり方。これからの保育・教育のみなおし改善すべきことの再考慮を実践してゆく必要を感じる。

- ① 職員体制
- ② 保育・教育のあり方
- ③ 安全、安心確保のための新しい実践

☆新型コロナウイルス感染症の流行や、それに伴うワクチン接種などの報道によって感染症対策や、ワクチンについての知識も広がりました。しかし、根拠が不確かな情報も広がりやすく、予防接種についての不安を感じている保護者の声も聞こえてきました。

園では、正しい情報を発信し、受けるべき予防接種を受けるべき時期に接種できるよう、広報を広める必要を実感している。その為にも、

☆①行政や、(園医)との連携を通して新しい情報の伝達

②職員全員での新しい情報の共有を図る(園内研修)

☆基本の徹底

3密、換気、消毒、検温、手洗い、うがいの励行